躊躇なく調剤薬局の道へ

五ツ星薬局　永野美里さん

患者の悩み聞く姿勢も大切

永野さん

昨年４月の医療法改正により、調剤を実施する薬局が「医療提供施設」として法律上明記されることになった。この法改正は、地域に密着した中小病院、診療所、薬局、訪問看護ステーションの連携を図ることにより、生活習慣病の予防や在宅医療の推進などを期待したもので、薬局に勤務する薬剤師も、今まで以上に重要な役割を背負うことになる。

◇　◇

永野美里さんは、徳島文理大学薬学部を卒業した2001年春から、“だんじり祭り”で有名な大阪府岸和田市の岸和田市民病院前にある「五ツ星薬局」に勤務している。同薬局を就職先に選んだ理由については、「学生時代に五ツ星薬局の勉強会（五ツ星フォーラム）に参加しました。その時、岸和田市民病院のドクターのお話を聞き、患者さんと直接会話のできる調剤薬局の仕事に興味を持ちました」と話す。

大学時代に有機化学を専攻していた永野さんは、ドクターから授業にはない実践的な講義を聴き、「自分の進む道はこれだ」と直感したという。研修制度がしっかり整備されており、「患者の親身になって相談を受け、地域医療に貢献する」ことを理念に掲げる五ツ星薬局への就職を決意するのに、そんなに長い時間は要しなかった。

薬局での調剤業務については、「在学中に地元の貝塚市民病院（大阪府貝塚市）や薬局で実務実習を受けていたため、新人時代から全く違和感を持たなかった」と振り返る。だが、「患者さんと円滑なコミュニケーションを取るのに苦労した」ようだ。「最初は五ツ星薬局の待合室に行って、アレルギーなどの患者情報アンケートを取るだけでも、緊張する毎日が続きました」と打ち明ける。

とはいえ、対面での懇切丁寧な服薬指導は、調剤薬局の生命線とも言える業務のため、絶対に避けては通れない。先輩薬剤師のフォローを受けながら、少しずつ慣れていくしか術はなかったが、「説明ばかりするのではなく、患者さんのお話を聞くことも重要」だと痛感したという。今ではキャリア６年のベテラン薬剤師となった永野さん、「患者さんにありがとうと言ってもらった時は、疲れも吹き飛ぶくらいうれしいです」と笑顔を見せる。

薬局への勤務を就職先に選ぶ薬学生に対しては「もしミスをしたときは、後のフォローが重要です。誠意を持って対応すれば、逆に患者さんとの信頼関係が、より確固なものになる場合もあります」と明言。さらに、「疑問に思ったことは抱え込まず、先輩に相談することが大切です」とアドバイスを送る。

先輩からの

病薬の魅力はチーム医療

東京警察病院　山岡聡江さん、河野茉里子さん

実務実習は職場知るチャンス

右が山岡さんで左が河野さん

東京警察病院（東京千代田区）の薬剤部に勤務する山岡聡江さんと河野茉里子さん。現在は病棟業務なども展開し、薬のことでは他職種からも頼りにされるなど、充実した日々を過ごしている。２人に病院薬剤師という職種を選んだ理由や、実際に経験する中で実感したこと、後輩へのアドバイスなどを聞いた。

◇　◇

２人とも、大学病院で半年から１年間の研修を行った後、同院薬剤部に就職した。山岡さんが約２年前、河野さんが約１年半前のことであった。

どうして病院薬剤師の仕事を選んだのかを尋ねたところ、２人とも注射薬の調製など病院薬剤師ならではの業務と、チーム医療への参画を理由として挙げた。河野さんは「注射薬調剤に興味があった。また他の医療従事者と協力して、１人の患者さんの治療に当たるチーム医療に魅力を感じた」と話す。

実際に病院薬剤師として過ごす日々はどうかというと、山岡さんは「重症で入院してきた患者さんが、医療スタッフの治療によって回復し、退院に至るまでの経緯を日々見ることができるため、非常に充実感がある」と語った。

河野さんは「患者さんと接している中で、珍しい症例に遭遇することもある。そうした症例を調べ、学会発表などをしていけば自分の勉強にもなる」と意欲を見せる。

学生の頃に思い描いていた薬剤師像と、実際に薬剤師になってみてからのギャップというのはないのだろうか。「患者として病院に来ていた頃は、薬剤師というのは薬を調剤しているイメージしかなかった」と２人は声を揃える。しかし業務に就いてみると、ＤＩ、注射薬調製、病棟業務など、実際に行われている業務が非常に多岐に渡っていることに驚いたという。さらに河野さんは「医師や看護師など、他職種から薬について質問を受けたり、非常に頼りにされているのを感じる」とも話す。

最後に、これから進路を選択しようという学生へのアドバイスを聞いた。

山岡さんは「開局は地域に密着した仕事をできるなど、それぞれの職業にメリット・デメリットがある。大学では開局、病院それぞれ実習に行く機会がある。そうした機会を積極的に生かしてほしい」と話し、職場の実際を見ることができるチャンスを有意義に活用することが重要とした。

Welpark
ウェルパーク
「からだ、すこやかに。くらし、さわやかに。」
地域に根付き、地域住民の方々に愛される、
「健康ステーション」
事業内容：調剤併設型ドラッグストアチェーン
資 本 金 ：9億5000万円
従 業 員 ：1668名
系　　列：いなげやグループ、イオンウエルシアストアーズ
店 舗 数 ：82店舗（調剤併設16店舗、調剤専門2店舗
出店エリア：東京・神奈川・埼玉・千葉
調剤併設リージョナルチェーンドラッグストア
株式会社ウェルパーク
〒190-0003　東京都立川市栄町6-1-1
TEL.042-537-5274　FAX.042-534-5532
東京・神奈川・埼玉・千葉
調剤併設ドラッグストア
企業説明会開催中
お問合せは 0120-577-322 (採用センター)
毎日就職ナビ、めでぃしーんねっとでセミナーエントリー受付
http://www.welpark.com
2008年新卒採用情報をご覧ください。先輩の働いているシーンや店舗情報を掲載しています。

いつも前向きな姿勢で

厚労省薬事企画官　関野秀人氏

薬剤師は“医療人”の自覚を

関 野 氏

薬学教育６年制の円滑な実施や、新しい医薬品販売制度の具体的な運用など、薬事行政の諸課題に取り組み、多忙な日々を過ごしている厚生労働省医薬食品局総務課の関野秀人薬事企画官。だが、失礼ながら風貌からはエリート行政官という印象はない。関野氏は、「仕事に就いてやりたいことができればベストだが、自分の希望だけやるというのは通じない。一定の忍耐力と、面白くないことでも面白く変えていこうという前向きな姿勢を持つことが大切」と、後輩にアドバイスする。

◇　　◇

関野氏は1986年に明治薬科大学を卒業し、大学院修士課程に進む。大学院へ進学したのは、もともと生物学に興味があり、この領域の研究をしたかったからだという。薬理学教室に所属し、主としてアレルギーと関係の深い肥満細胞の研究に取り組んだ。

「修士課程は２年間の期限があり、そこで行う研究は、どうしても結果が見込めるテーマに限られてしまう。結果が伴うかどうか分からないことを、一から探求したい」と考え、さらに３年間の博士課程に進んだ。

だが、この時期にはまだ、博士課程修了後にどのような仕事へ就くかは考えていなかった。ひたすら研究をやり尽くそうと思っていただけだという。しかし、身近な人が公務員になったことから、「それも一つの道かな」と感じた。

「修士課程を修了し、博士課程の１年間はホッとする時期。軽い気持ちで公務員試験を受けたら、運良く合格した」。自然体で臨み、88年２月に「これも運命か」と、大学院をやめて公務員の世界に飛び込んだ。

関野氏は、「今になって思うことは、学生時代は好奇心を持っていろいろなことにチャレンジしたが、卒業後の仕事については、実際のところ全く分かっていなかった」と振り返る。

そして、「６年制では１年生の時に研究所や公務員、製薬企業など、様々な職場を回る体験学習がある。薬剤師になるための勉強を始める段階で、卒業後の社会を何となく頭に入れられる。そういう環境で学べるのはすばらしいことだ」と話す。

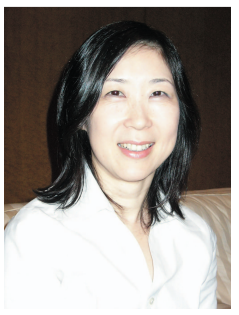
最後に、「薬剤師は患者さんのために仕事をする医療人。病院であれ、薬局、製薬企業、研究所であれ、全て同じ。何事に対しても、前向きな考え方で取り組んでほしい」とエールを贈った。

アドバイス

患者の思い汲み取る仕事

ＧＳＫ患者支援対策課長　遠藤永子さん

自分が患者になった気持ちで


遠藤さん

グラクソ・スミスクライン（ＧＳＫ）のマーケティング本部カスタマーリレーション部に置かれた「患者支援対策課」。この聞き慣れないセクションの仕事は、日本の製薬企業ではまだ新しい。医師を相手にするケースが多い製薬企業にあって、この職場は主に患者団体が相手の仕事だ。1981年に共立薬科大学を卒業した遠藤永子さんは、ＧＳＫで患者支援対策課長を務めている。

◇　　◇

日々、患者と電話で、あるいは直に接する。患者の生の声を聞き、その置かれた環境や思いを汲み上げるのが役割だ。それは、患者ニーズに合った新製品の開発、必要な医薬品情報の提供などに生かされる。また、患者団体同士の交流を手助けしたり、疾患に関する正しい理解を社会に促すための啓発活動につなげたりもする。

医薬品企業のこうした取り組みは、2000年ごろから米国で始まった。良い医療を実践するためには専門家だけでなく、患者の声なしにはあり得ないとの考え方であり、日本でも動きがある。

ＧＳＫ日本法人に患者支援対策課ができたのは04年５月で、遠藤さんは初代課長である。「とても不安だった。患者団体と聞くと医療訴訟とかが連想され、製薬会社をよく思っているはずがないと」。しかし、それは思い込みと気づく。「これまで嫌な思いをしたことは一度もなかった」

約２年間築き上げてきた信頼関係が昨年９月、一つの実を結んだ。患者団体の交流を目的とした第１回「患者支援団体サミット」（Ｊ－ＰＡＬＳ）の開催だ。うつ、呼吸器疾患、慢性頭痛など16団体の参加を得た。出席者のほとんどから、次回の開催を望む声が寄せられた。

広い舞台で活躍したいと企業への就職を選び、81年に入社。開発部門で多くの期間を過ごしてきたが、今の仕事で意識が大きく変わったという。「開発では早く症例を集めることにばかり意識が向き、結局は患者さんが見えていなかった。今の仕事で、初めて患者さんに貢献できたという実感がある。喘息の患者さんにＧＳＫの薬で命が救われたと手を握られ、適切な薬剤を適切な時に届ける大切さが身にしみた。製薬会社は患者さんあってこそだと実感できた」

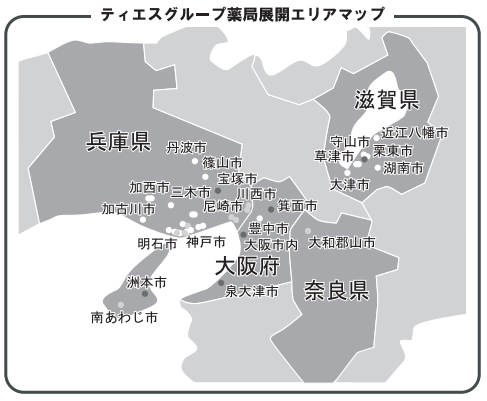
今までの経験と自らの学生時代の反省を踏まえた遠藤さんからのアドバイス。「単に資格を取る、勉強するだけではなく、それが何のためなのか。常に自分自身が患者さんだったらという視点で取り組んでほしい」

近畿一円５２店舗（グループ会社含む）調剤薬局チェーン
ティエス調剤薬局グループ

患者様に選ばれる薬局には、いい薬剤師がいます。いい薬剤師は、その実力を十分に発揮できるいい環境を求めます。
ティエスプランはいい環境を提供し、いい薬局になるためにがんばっています。私たちと一緒に働きませんか！！

“ビッグカンパニーよりグッドカンパニー”ティエスプランです。

ティエスグループ薬局展開エリアマップ



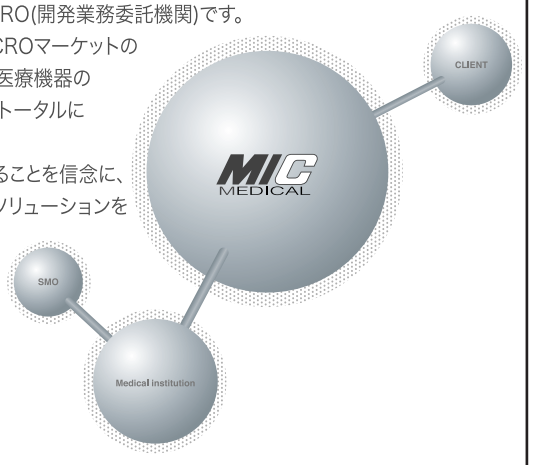
■会社概要
●設立　１９８５年３月
●代表者　代表取締役社長　霜嵜　敏文
●資本金　出資額　３００万円
自己資本額　１３，５００万円
●年商　３７億円
●従業員数　２００名

■待遇
●初任給　２４０，０００円（諸手当含む）
●昇給　年１回
●賞与　年２回（昨年度実績５ヶ月）
●勤務時間　変形週４０時間
●休日　日・祝日・各店舗で定められた日
●休暇　年末年始、年次休暇、夏季、特別（慶弔）
●福利厚生　各種社会保険完備、退職金制度有、保養所有

有限会社ティエスプラン
本部　〒673-0855 兵庫県明石市中朝霧丘12-9
ＵＲＬ：http://www.tsplan.co.jp
お問い合わせ先　TEL　078-919-5959　人事担当／谷
FAX　078-911-5941
E-MAIL　saiyou@tsplan.co.jp

Possibility is Limit less.

医療技術の発展をサポートし、多くの人の命を救う
ー㈱MICメディカルは、そんな夢を担うCRO(開発業務委託機関)です。
大きな可能性を秘め、日々成長し続けるCROマーケットの
リーディングカンパニーとして、医薬品や医療機器の
開発計画から承認申請・保険収載までをトータルに
コーディネート。
常に新しい知識と発想を求め、誠実であることを信念に、
国内から海外まで、グローバルな展開でソリューションを
提供しています。



採用情報に関するお問い合せ
人財開発部採用グループ
担当：嶋田
電話：0120−314−392
（「サイヨーミックニ」）
E-mail recruit@micjp.co.jp

株式会社MICメディカル
http://www.micjp.co.jp
■東　京　本　社：〒113-0034 東京都文京区湯島4-2-1 杏林ビル
■東京本社分室：〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-22 ダヴィンチ湯島4F
■大　阪　支　社：〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町4-4-11アーバネックス淡路町ビル